

静岡

「伊豆縦貫自動車道」は、沼津市と下田市を結ぶ全長約60kmの自動車専用道路であり、全国的な高速交通網を構築する高規格幹線道路網(14,000km)に位置付けられている。

本自動車道は、東名高速道路や平成24年4月に開通した新東名高速道路と一体となって、伊豆地域に高速交通サービスを提供し、渋滞緩和や観光を中心とした伊豆地域の産業活性化、物流の効率化などに大きな役割を果たすだけでなく、救急医療施設への患者の搬送路や大規模災害等における緊急輸送路などの役割を有し、住民の安全・安心に不可欠な、伊豆地域の背骨として極めて重要な幹線道路である。

「東駿河湾環状道路開通のインパクト」伊豆半島へGO!



東駿河湾環状道路・函南町塚本付近

「東駿河湾環状道路」(沼津岡宮IC※1～(仮称)函南IC:延長15km)は、伊豆縦貫自動車道の一部を構成しており、国と静岡県が分担して東駿河湾環状道路及び国道136号函南三島バイパスとして事業を進めている。

東駿河湾環状道路の供用により、休日を中心に慢性的な渋滞が発生している沼津・三島都市圏内※2の

交通が、東駿河湾環状道路を利用し伊豆地域へ流入する観光・物流などの通過交通と、一般道を利用する生活交通とに分離され、国道1号及び国道136号などの大幅な渋滞緩和が期待される。平成21年7月の沼津岡宮IC～三島塚原IC間(延長10km)の供用時には、東名沼津ICから南二日町交差点の所要時間が31分から20分に短縮されたが、供用間近となっている三島塚原IC～函南塚本IC間(6.8km)の開通により、東名沼津ICから伊豆中央道入口交差点までの所要時間は41分から14分と大幅に短縮される見込みである。

また、今年度には、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の相模原愛川IC～高尾山IC間(14.7km)の開通も予定されている。これにより、伊豆半島と首都圏が、東駿河湾環状道路、東名高速道路、圏央道、中央自動車道、及び関越自動車道の高規格幹線道路で繋がる。

八王子から修善寺までの所要時間は、3時間10分から1時間40分と、約1時間30分の短縮となる見込みであり、交流圏域の大幅な拡大による伊豆地域の観光振興等が期待される。

伊豆縦貫自動車道を構成する道路としては、東駿河湾環状道路のほか、天城北道路、河津下田道路が事業化されており、各道路の整備推進及び伊豆縦貫自動車道の早期全線開通を、静岡県及び関係市町、民間経済団体が一体となって、事業主体の国に働き掛け、早期の高速道路ネットワーク構築に努めているところである。

今回の東駿河湾環状道路開通に合わせて、伊豆地域の各市町では、本道路を活用したおもてなしの取り組みを進めている。全国から伊豆地域へ多くの方に訪れていただき、さらに静岡県全体が活気に溢れることが期待されている。

※1 IC:インターチェンジ

※2 沼津・三島都市圏:伊豆縦貫自動車道と国道1号、沼津インター線で囲まれるエリア



東駿河湾環状道路の概要図